

Ⅲ. 教育部会報告 (部会長 渡邊 俊輔)

1. 大淀川の学習・体験の推進事業 ～大淀川と友達になろう～を開催しました

平成 29 年度宮崎市市民活動支援補助金の助成団体に採択され、宮崎市環境保全課との協働事業として、8 月から毎月第一日曜日に開催しました。対象は宮崎市住民（幼稚園児、保育園児、小学生などの親子）で、子ども 66 名、大人 55 名の計 121 名（申し込み人数:子ども 166 名、大人 141 名の計 307 名）に参加いただきました。

ボランティア(団体外)10名、会員27名 合計158名での活動となりました。

8月：「大淀川を知ろう」(台風の影響で中止)

～高松橋から大淀川の流れや水辺の様子を観察し川の仕組みを学ぶ～
(申し込み数17名)

9月：「ヨシの葉を使って遊ぼう」

ヨシの葉でヨシ舟を作って天満橋下の小川に流したり、採取した野草を使ってミニ地球を作った。
(子ども14名・大人12名 計26名 申込数39名)



10月：「カヌー体験とごみ拾い」

大淀川でカヌーを体験し、水辺のごみを拾った。

カヌー体験とゴミ拾いということで非常に人気のあるメニューとなっている。定員の約3倍の申し込みがあったので参加者を抽選とした。

(子ども17名・大人13名 計30名 申込数92名)



11月：「清武川の探検と互換による水辺調査」

バスで清武川の上流から下流の4か所(鰐塚溪谷、上屋敷橋、黒北発電所、松井用水取水堰)を回り、近くの河原で五感による水辺環境調査を行った。

(子ども13名・大人10名 計23名 申込数40名)



12月：「河原で希少植物を探そう」

南谷忠志先生を講師にお招きし、天満橋周辺の水辺や河川敷、堤防で植物観察して、希少植物を探した。

(子ども5名・大人5名 計10名 申込数34名)



1月：「川原で川の宝を探そう」

高松橋から橘橋までの大淀川河川敷で指定されたルートを歩きポイント探し回ってクイズに回答しながら大淀川の素晴らしさについて学んだ。

(子ども8名・大人8名 計16名 申込数46名)



2月：「水のオリンピック」

クリップやビー玉を使った水のオリンピックを実施し、その後にペットボトルで噴水を作っ楽しみながら水の特性を学んだ。

(子ども9名・大人7名 16名 申込数34名)



2. 宮崎県絶滅危惧種 タコノアシの保全活動

セブン・イレブン記念財団の活動助成を受けて実施

大淀川河口から4.5～5kmの左岸に位置するワンドの上流端に塩性湿地があり、全域にヨシやオギなどが群落を形成、水際に宮崎県絶滅危惧種Ⅱ類のタコノアシが生育している。

この湿地のタコノアシを保全対象として、日当たりの良い湿地への改善と生育地の拡大を実施した。

①募集案内のポスターとチラシを作成して、地域の小学生や大学生、専門学校生に配布、地域住民にはホームページやブログ、情報誌に掲載して、環境ボランティアの参加を募った。



②タコノアシの生育地での刈取り作業を効率的に行うために、湿地の川側の砂州上に作業路を伐開した。

③タコノアシの成長期となる春季の活動では、タコノアシの生育地で競争種となっている丈の高いヨシやオギなどを刈払機と刈込鋏、剪定鋏を使って刈取り、トラックでゴミ処理施設に持ち出した。



④開花期となる夏季と秋季の2回の活動では、外来種のアレチハナカサをスコップで抜根して駆逐し、その下流の未生育地で水際のヨシやオギなどを刈取った。夏季はトラックでゴミ処理施設に持ち出したが、秋季はその場に倒して処理施設には持ち出さなかった。



⑤刈取った未生育地で水際をスコップで掘削して緩傾斜化し、生育地の密集度が高い箇所では採取した茎の一部を刈って短くした茎と発芽苗を植えた。



○ MRT宮崎放送の夕方のニュースで、活動が紹介されました。



⑥冬季の紅葉期の活動は、種子を採取して、未生育地の緩傾斜化した水際に播種する。また春季に刈取った生育地で伸ばしたヨシやオギなどを刈取り差し芽をした。



・多くのボランティアの方々に参加していただき、生物多様性への関心を高めることができました。



評価

- ・協働事業とすることで、行政からも企画・運営・実施に対する助言をもらうことができ、市報への掲載や教育関係への周知が行き届いた。
- ・親子向けの団体で活動する保護者も参加、活動の趣旨に賛同してフリーペーパー「グラマパ」1月号に掲載していただいた。その後、問い合わせと参加申し込みがあった。
- ・みやざきの子育て情報誌「With plus」にも掲載された。
- ・多団体との連携や口コミでの参加者増に効果があった。
- ・ボランティアの協力により、大淀川の河川敷に生息する絶滅危惧種の植物をはじめ様々な生物の観察を通して、大淀川について関心を持ってもらう機会を提供することができた。

今後の課題

- ・屋外会場での実施は天候にも左右されるため、実施日の設定が難しかった。
- ・次世代を担う若者が環境保全活動に参加できる機会を提供するために、今年度協力いただいた専門学校、大学等と連絡を取り合いながら継続できる事業を目指していきたい。